

イソカゼ *Basterotia gouldi* (A.Adams)

【選定理由】

本種は内湾の干潟から潮下帯の砂泥底に生息する。県内では内湾域の干潟から潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も三河湾湾口部では殻皮の残された比較的新しい死殻が少数採集されるが(木村, 1996, 2000)、今まで県内で生貝が採集された記録もない。本種はミドリユムシ類の巣穴に棲むという特殊な生態をしており(木村, 2012)、ミドリユムシ類という宿主(宿主)が県内でほとんど報告例がないので本種も危機的生息状況である。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 10-20 m), 1994 年 10 月 3 日,
木村昭一採集

【形態】

殻長約 7 mm で卵形の貝で白色、殻はやや厚い。殻頂は前方へ寄り、前へ傾く。生時には殻の外縁を越える淡褐色の殻皮で覆われている。

【分布の概要】

【県内の分布】

現在生息が確認できない。合弁の標本は死殻でさえ採集することが難しく(木村, 1996)、絶滅した可能性もある。

【世界及び国内の分布】

日本以外からの生息記録はなく、日本固有種の可能性が高い。房総・男鹿半島以～九州まで分布する(木村, 2012)。勢水丸のドレッジ調査では、近年伊勢湾湾口部の水深 40 m 程の砂礫底より比較的新しい死殻が多数採集されたので、伊勢湾の三重県側では個体群が維持されている可能性が高い。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.

木村昭一, 2012. イソカゼ, p. 153. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)